

事務事業名 空港シャトルバス利用促進事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり	
施策:02 公共交通網の整備・充実	部名:総務部
基本事業:03 バスでの主要都市へのアクセス向上	課名:企画政策課

計画年度	平成13年度 ～ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計						
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）									
市民 芝山鉄道延伸連絡協議会		空港シャトルバスは、芝山鉄道延伸連絡協議会（山武市、芝山町及び横芝光町で構成）が実施する事業で、成田国際空港と九十九里地域を結ぶバス路線の確保・充実を図った。 ＜バスの運行ルート等＞ 空港第2旅客ターミナル～横芝屋形海岸 停留所16箇所（うち山武市内8箇所） 大型バス2台（45人乗）で1日往復12便 乗車料金：横芝屋形海岸～蓮沼中下間から空港：一般300円、小学校6年生以下及び身障手帳持参者150円、保護者同伴就学前乳幼児無料 上記以外の区間：一般250円、中・高校生200円、小学校6年生以下及び身障手帳持参者100円、保護者同伴就学前乳幼児無料									
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）											
市内と成田国際空港間の交通利便性が確保される。											
4 活動指標・成果指標・事業費の推移											
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値					
活動指標①	年間運行のべ回数	本	8,784	8,760	8,760	8,784					
活動指標②	協議会（総会・幹事会）の開催回数	回	3	6	3	3					
成果指標①	年間利用者数（山武市内8 停留所）	人	39,384	39,931	40,500	41,500					
成果指標②											
事業費		千円	15,778	16,037	15,786						
うち一般財源		千円	15,778	16,037	15,786						
5 目的妥当性											
☐ 法定受託事業である（根拠法令→） ☒ 妥当である ☐ 妥当性が低い		成田国際空港が開港以来、空港及び周辺市町に通勤・通学する方が増加しているが、路線バスがない状況であり芝山鉄道延伸の代替手段として利用者の重要な交通手段となっている。									
6 上位の基本事業への貢献度											
☒ 貢献度大きい（理由→） ☐ 貢献度ふつう（理由→） ☐ 貢献度小さい（理由→） ☐ 基礎的事務事業		バスでの成田市へのアクセス本数が維持され、利用者の増加が見込める。									
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討											
☐ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ☒ 対象や意図の見直しはできない ☐ その他		芝山鉄道延伸連絡協議会が実施するバスの運行事業であり、対象意図の見直しはできない。									
8 有効性（成果状況）											
☐ あがっている ☒ どちらかといえばあがっている ☐ あがっていない		乗車人員が前年度と比べ若干ではあるが伸びている。 バスの定員数を考慮すると現状の運行形態では向上余地は少ない									
9 有効性（成果向上余地）											
☐ 成果向上余地・大 ☐ 成果向上余地・中 ☒ 成果向上余地・小・無し											
10 事業の再編成											
☐ 類似の事業があり、再編成できる ☐ 類似の事業はあるが、再編成できない ☒ 類似の事業はない		類似の事業は、民間を含めてもない。									
11 効率性（コスト削減の方法）											
☐ ある ☒ ない		平成21年度に乗車運賃の改定を行ったので数年間は値上げは困難である。									